

# 伝円珍筆三井寺切の放射性炭素年代と紙背『文選注』断簡の書写年

Radiocarbon Age of Miidera-gire Attributed to Enchin and the Historical Period when an Ancient Monzen-chu Manuscript was Written

小田寛貴・安 裕明・池田和臣・坂本 稔

ODA Hirotaka, YASU Hiroaki, IKEDA Kazuomi and SAKAMOTO Minoru

- ①はじめに
- ②『文選』・『文選注』および三井寺切
- ③料紙および書跡
- ④ $^{14}\text{C}$ 年代測定
- ⑤考察

## 〔論文要旨〕

三井寺切は、料紙両面に異なる筆跡の書をもつ古筆切である。片面には草書で仏書が書かれており、もう片面には『李善注文選』の一部分が楷書で書かれている。草書の仏書は、円珍（智証大師）の手になるものとされており、平安時代の書風を持っている。料紙表面の状態と書跡とから判断すると、『李善注文選』側のほうが仏書よりも先に書かれたものであると判断できる。本研究では、この『李善注文選』が書写された年代を明らかにするべく加速器質量分析法による $^{14}\text{C}$ 年代測定を行った。その結果、 $2\sigma$ で666~776 [cal AD] という較正年代が得られ、この古筆切が奈良時代以前に書写された『李善注文選』写本の断簡であることが示された。現存する最古の『文選』写本は、平安鎌倉時代の残欠本であり、奈良時代では正倉院文書と平城宮跡出土木簡に一部分が書写されたものが残されているにすぎない。それゆえ、奈良時代以前の書写年代をもつ本古筆切は最古級の『文選』写本の断簡であることになる。

【キーワード】 三井寺切, 文選, 古筆切, 放射性炭素年代